

地域における高齢者等の生活情報データ化及び利活用にかかる共同研究の実施について

中野区では、スマートウェルネスシティの実現に向け、産学官連携による地域包括ケア体制の充実を図るために「中野区地域包括ケア推進パートナーシップ協定制度」を導入し、これまで複数の事業者との協定を締結したところである。

このたび協定締結事業者の1つである、株式会社D-attendおよび国立大学法人東京科学大学、中野区の3者による共同研究を行うこととしたので、報告する。

1 目的

地域における高齢者の生活および活動情報についてデジタルを活用してデータ化し、そのデータを利活用することにより、中野区における地域包括ケア体制の充実を図る。

2 共同研究の内容（別紙）

地域で活動する団体等に協力を依頼し、利用者である高齢者の健康情報等を蓄積し、心配な状況が判明した場合は、区や地域包括支援センター等と情報を共有し、課題の早期発見・対応につなげるためのアプリケーション「生活カルテ」を開発・活用し、地域活動を起点とした見守りの仕組みを構築する。

3 役割分担

（1）株式会社D-attend

- ・中野区内で活動する団体との協働
- ・大学の行う社会的、医療経済性試算のための情報提供

（2）東京科学大学

- ・「生活カルテ」アプリケーションのテスト実施、改善
- ・社会的、医療経済的価値の試算

（3）中野区

- ・実証実験フィールドの提供、諸検討への参加

4 協定期間

協定締結日から令和8年（2026年）3月31日まで

5 協定締結日

令和7年（2025年）5月28日

イロイロ生活カルテ 補足説明資料

別紙

背景課題

シニアの生活情報は地域に存在し、医療行政機関からはアクセスが困難

シニアの現状

生活が変化しても自ら相談したりSOSを発信することが難しい層がいる。

行政の現状

行政への相談に繋がっていないと支援の手が届かず、対応が後手に回ってしまう。

→地域の繋がりを活用し、住民が異変に気付く/相談窓口を後押しする構造を生む（重層的支援体制整備事業ガイドラインより）

ソリューション「イロイロ生活カルテ」

地域コミュニティに眠る高齢者の生活情報を蓄積、デジタル化し連携

特徴① コミュニティ受付機能

高齢者に**彩色カード**を配布。コミュニティの受付時に、出欠と簡単な体調質問を共用アプリに記録。

特徴② 異常発見アシスト&連絡機能

体調申告や出欠の変化、管理者のメモから特に**注意が必要な高齢者をハイライト**。
→ワンクリックで関連機関へ相談。



スケジュール（案）

2025年度

団体へ協力依頼
連携手順検討

アプリのチュ
ーニング

実証（中野区内複数
コミュニティ）

検証